

仙台陣屋かわら版

第七十四号

(平成二十三年四月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp

〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL/FAX 0144-851666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

「心づくしのお雛様会」には三十名以上が参加!!
『麗しの雛人形展 Part 4』無事、閉幕いたしました

二月十一日(金)から開催しておりました雛人形展、四年目を迎えた今年も、町内外から多くの人足を運んでいただきました。雪が少なかつたおかげもあつてか、期間中の来館者は四五〇名以上を数え、大盛況の内に閉幕しました。また二月十七日(日)の「心づくしのお雛様会」においても、多くの方々に雛祭りを楽しんでいただけたかと思ひます。絵本の読み聞かせや、甘酒・桜餅・ちらし寿司などの振る舞い、それからお雛様クイズに紙雛づくりと、楽しい催し物が満載だったお雛様会。中でも絵本の読み聞かせでは、陣屋資料館のボランティア解説員であり、「おはなし会とところ」の代表を務める平松幸子さんに朗読していただき、子どもたちも夢中になってお話を聞いて



(夢中になって聞く子どもたち)

ていました。一方のお雛様クイズでは、参加者から難しかったとお声が。全十二問正解された方はいらっしゃらず、十問正解が最高でした。ひよっことして、ちょうど十問にしてあげば、全問正解者が出たのでしょうか?



(ん〜、答えはなんだろう?)

ちなみにいったいどんなクイズだったのか、皆さんにも少しだけ紹介します。

問題③ 五人囃子の中で楽器を持っている人数は? A二人、B四人、C五人

問題① ひな壇を飾る道具の中に、陣屋資料館にも展示されているものがあります。それは何でしょうか? Aお膳、B重箱、C 鉄箱 (はさみばこ) ※衣服や調度を収納し持ち運びができる箱

問題③ の答えはB。五人いるから五人と思いがちですが、向かって右から謡うたい、笛、小

鼓(こづみ、こかわ)、大鼓(おおづみ、おおかわ)、太鼓と五人囃子は構成されており、謡だけは楽器を持っていないのです。

問題① の答えはB、C。Bは提げ重箱、似たものとしては重ね食籠が陣屋資料館に展示されており、Cは竹雀の家紋が入った鉄箱の複製品があります。この他にも館内にはひな壇を飾る道具と同じようなものがありますので、皆さん見つけてみてくださいね。以上お雛様クイズでしたが、やはり難しかったですでしょうか。

さらに今年度は、初の試みとなる「雛人形制作体験」を実施するなど、新たな一歩にも挑戦してみました。申し込みがあるのか、皆さんが来てくださるのか、色々と心配はありましたが、無事に終えることができました。

雪の降る悪天候のなか、お雛様会に足を運んでくださった方々、雛人形制作体験に参加して下さった方々、また会期を通して来館して下さった方々には、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。また、毎年お雛様を貸して下さる皆さんはもちろん、雅なひと時を演出してくれたお雛様たちにも感謝を。来年もよろしく願います。



(皆さん、来館してくださって本当ありがとうございました!)

歴史と文化のまちPR展示事業が開幕しました

“ 住人の顔が見える白老町史 ” を目指した展示会、「あなたと白老、わたしと白老」ひとりひとりの白老町史」展を、三月十九日（土）より開催しました。白老地域文化大学の学生から、思い入れのある資料を貸していただいた結果、まさに十人十色な情報の詰め込まれた展示会ができました。いちおしは、町内で幼少期を過ごした方々より聞き取りを行なった、題して“ 昔の遊び場マップ ” です。意外に感じる遊び場や、共感してしまえる逸話などを見つけられるのではないのでしょうか。

今年のPR展は、まさにここが妙味。住民それぞれに「違っていて当然」であり、そうした情報をまとめることで人々の息吹が感じられ、また郷土の歴史に親近感を抱けるようになるのだと考えています。

白老地域文化大学 活動報告

◆第四五回白老地域文化大学講座

「郷土を “ もっと ” 学ぶためには？」平成十九年から月例で開催してきた白老地域文化大学も、早いもので4年目を終えようとしています。そこで学生たちは白老Jミセンに集まり、郷土白老をさらに詳しく知るための方法について話し合いました。十一名が参加という、少々もの寂しい会合ではありましたが、これもある意味、郷土学習の浸透に立ちはだかっている壁なのかも知れません。会場が溢れるくらいの人が集ま

り、相互に学びあい教えあえる環境が求められているように感じられました。また参加した学生からは、座学ばかりに偏らず、ときには地域を歩く体感的な講座の要望も挙げられています。

せっかくお寄せいただいた貴重な意見を活かせるよう、いろいろと頭を捻っていきたいと思います。どうぞご期待ください。

◆第四六回白老地域文化大学講座

「白老町と木彫グマ」何故、白老町の木彫グマ産業は後退してしまったのでしょうか。二月十九日に実施しました白老地域文化大学講座では、白老に移り住んでから五十年間、木彫グマ産業に携わり続けてきた、大島信也氏を講師にお迎えし、同産業が人知れず抱えていた問題を、制作する側からの視点を以ってお話いただきました。

講話のなかで大島氏が特に強調されたのは、とにかく浮き沈みの勾配が急すぎた点。つまり人気が沸騰してから凋落するまでの期間が、あま



（いきいき4・6にて実施。
雰囲気もちよっと違います）

りにも短かったということ。私も我もと店を構え、競つように売り上げを伸ばしていた好況振りは、その裏で師弟関係が築かれ難いという環境をも抱えていたのです。そのため後継者を育てる素地が作れず、ブームの退潮に引きずられる結果を生み出してしまいました。景気変動が主な理由として囁かれる木彫グマ産業の衰退ですが、職人の視点は別の問題も捉えていたようです。かつて白老を賑わし潤した話題の講演だけに、二三人を数えた聴講者も、じっと耳を傾けていました。

あまやザムライに感謝!!

ごさんこワイドあまやひでおきりポーターの奮戦振りをテレビで見た、苦小牧在住のうら若き乙女が二人、鎧の試着体験に訪れました。かわら版の掲載も快く応じてくださったので、ご紹介します。



ところで女性の場合、「似合ってますね」は褒め言葉になるのでしょつか？

刀剣展に関するお報告です

毎年、GWを中心に開催してきました刀剣展を、今年も秋頃の実施に変更します。同企画を待ち遠しく思われていた方には申し訳ありませんが、ご了承のほど、お願い申し上げます。

「仙台陣屋かわら版 第七十四号 平成二十三年四月号」

発行日：平成二十三年三月二十四日（木）
発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場